

公民連携箕面観光戦略会議 第1回策定部会 議事要旨

箕面市観光協会

日 時:令和4年8月9日 19時00分～21時15分

会 場:箕面文化・交流センター 8階 大会議室

出席者:会場出席者20名/オンライン出席者1名

(公民連携箕面観光戦略会議 第1回策定部会 出席者名簿 参照)

1. 開会の辞

事務局より開会が宣言され、議事に入るまでの間、事務局が司会進行をおこなった。

2. ご挨拶

公民連携箕面観光戦略会議の柚木座長より挨拶があった。

3. 自己紹介

会場出席者及びオンライン出席者より自己紹介をおこなった。

4. 事業協力者紹介

観光戦略策定業務の事業協力者であるハーツベリー企業共同体より挨拶があった。

5. 策定部会の進め方について説明

事務局より策定部会の役割と進行について説明をおこなった。

役割は①箕面観光の実態調査の実施と分析。②観光戦略の作成及び意思確認の会議体である全体会議への提案。③実施可能なアクションプランの試行実施等。

進行は12月の箕面観光戦略の策定に向けて、計4回の策定部会を予定しており、第1回、第2回では、基本方針となる観光戦略について協議をおこない、第3回、第4回ではアクションプランの構築をおこなっていく。

6. 議事

(1)ハーツベリー企業共同体より「公民連携箕面観光戦略会議第1回策定部会検討資料」に基づき説明をおこなった。

第1回策定部会の検討資料の内容は第1回全体会議(7月11日開催)を受け、以下3点で構成されている。①観光戦略策定の目的と課題、②(仮説)戦略の設定、③(仮説)戦略を展開するための重要な視点。

第2回策定部会では以下2点を協議する。①第1回策定部会を受けて修正した(仮説)戦略の確認、②①に伴ったアクションプランの方向性の提示(今年度実施可能なもの、引き続き検討が必要なもの)。

(2)柚木座長より、箕面観光における大きな問題点は、「箕面には大滝があるという周知の事実、このことで観光が成り立ち、長い時間の流れの中で無策となった。」と思われる。

そこで、検討資料において、各委員からのご意見を賜りたいと要望がある。

(●:各委員からのご意見 ○:柚木座長の意見(委員の意見を受けて))

- 当会議の開催要領にも「持続可能な観光」が示されており、アクションプランへの視点としても必要。アクションプランへの視点(検討資料 P7)「5年10年先の目標」の箇所に、もちろん活用もするが、「保全」という項目(箕面の財産である自然、生物多様性、歴史文化という観点から、それらを保全していくことが持続可能な観光になるという視点)を取り込んではどうか。
- 看板の英語表記について、何かの英語表記を標準化するとき参考にしてお渡しできるようなデータを所有している。
- 箕面の森エリアにおける健康に関する項について、関連するイベントを開催しており、健康という切り口で、深掘してはどうか。
- 箕面検定の強化推奨をお願いしたい。
- インバウンド対応にもなり、日本の若い女性にも魅力に感じてもらえる日本文化の体験を実施してはどうか。(例:浴衣・着物・人力車など)
- 止々呂美地区の日本家屋における昭和の疑似体験も魅力である。
- 箕面駅・周辺の景観を崩さない考慮したサインの再考。駅に降り立った時に「箕面へ来た」とときめきのある演出を行うことで、駅から感じる箕面ブランド力の向上を図ってほしい。
- 現状のサインは目的地までの距離や所要時間がわかりづらく、デザインも新旧が混在し統一感がない。ピクトグラムによる統一感を持ったサイン計画も必要。
- 観光案内所の場所と運営方針の再考。同所は現状、箕面駅から観光地である箕面公園までの動線になく、閉所時間も早い。
- 郷土資料館の場所と運営の再考。とてもいい内容の展示があるにもかかわらず市民からの認知も低いため、場所を変える若しくはわかりやすいサインが必要。
- 箕面駅改札出てすぐに設置されている看板は、写真と文字のみである。サイン計画には、ARも含め子供が理解しやすいようなものを取り入れてもよい。重要なのは箕面のファンを生み出し、増やすことである。委員皆さんの貴重なご意見を形に変えていきたい。
- 自社事業においてブランディングする中で、滝に依存せず、その恩恵を受けるという目線で商品開発をしている。ガストロノミーという言葉があるが、食とその土地の文化、美意識などの掛け合わせたものを提供することが重要だと考えており、精進料理のメニュー開発に取り組んでいる。
- 過去に滝前ウェディングを行った際、また自社でのウェディング実施の際にも箕面はデートに来た思い出の場所と言う声を聞く。若い人やカップルをターゲットとした取り組みにより、それが「思い出の場所」に繋がり、そういった機会からも移住・定住を促していったらどうか。
- 箕面市内で行われているイベントを整理すると、1月に殆どイベントがない。お正月の寺社への初詣客をいかに回遊させるかを現在考えている。

例えば、年間を通じて精進料理が提供出来れば、新たな価値として WEB 発信していくことは可能。

- 滝道に遊休状態の施設や空き店舗はない。滝道の店舗は、住宅兼店舗であり、高齢化により店舗営業はせず住居のみとなっている。後継者問題や店舗を閉めている方に対して、行政や商工会議所などが仲介し、借り手の紹介を行う仕組みなどがあれば、所有者も安心して店舗を貸すことができるかもしれない。前例ができれば、業態が変わっても店舗運営が成り立つというような仕組みを提案して欲しい。
- 遊休地等の活用は非常に難しい問題ではあるが、すでに箕面市で市やタウンマネジメント会社が買い上げたりしている。活用の仕組みについて関係各所に必要に応じて声かけをする。
- 箕面の紅葉は、場所によって見頃の時期が異なり、観光客へ見どころを的確なタイミングでお伝えすることの難しさを実感する。そういうものをお伝えできるようなシステムがあれば良い。
- 箕面駅又は大日駐車場から大滝までは距離があるため、高齢者や足の悪いかたが大滝を見に行くことができる移動手段等の充実が必要。
- 箕面公園管理事務所が、滝道の途中で歩けなくなった高齢者に対応している事例があると聞いている。他府県では、インフラ整備の事例もあるが、国定公園内で道幅の拡幅も難しいが、情報プラットフォームの活用の一つとして、仮想空間(メタバース)で疑似来訪体験ができる技術を活用する手法もある。2023年度北大阪急行線の延伸・2025年大阪・関西万博開催・2029年大阪IRの開業が予定され、海外から多くの観光客の来訪が見込まれるため、箕面市内でも夜の観光(ナイトエンターテインメント)も検討している。箕面市は、森町・彩都・船場エリアなど、未開発・開発中のエリアがあり、そのまちづくりの中で高齢者への対策という視点も必要かと思う。
- 鹿など害獣対策を、箕面市全体で取り組む必要性がある。現状は、モミジなど紅葉がなんとか維持されているが、今後、害獣対策や植樹などの施策をしなければ、将来モミジのない箕面になるかもしれない。30年あるいは 50 年先を見据えた、モミジの保全や維持管理が必要。
- 一重に「自然」という言葉から、幅広い意味を持つことを考えた上で、そのような意見も非常に大事なパーツとしてとらえて検討していく必要性がある。
- 例えば、【箕面】の漢字(箕=食をよくする為の道具、面=広げていく)やへん・つくりから連想し、観光の素材として具現化してゆくのはどうか。いいつたえなどではないが、親しみやすい漢字や文字の持つ意味合いからのアイデアをブラッシュアップしてゆく。
- 観光と商業の一体化という視点が必要。公園エリア=滝道とイメージしがちであるが、周辺の商店街も一体的に考えることができないか。

これまで、滝道観光の後、箕面駅以南の商店街へ観光客の動線を変え、当該エリアでの滞在時間延長、消費額の増加を目的に、箕面市発行の「箕面滝道めぐりマップ」の作成にも携わってきた。同マップの配布により、商店街への回遊性は向上し、実際に集客増の事例がある。

商店街への回遊性の向上、観光・商業と市民が一体化できるような視点を盛り込んでもらえれば、もっと観光客から賛同を得られるようになる。

- 夜の滝道の活性化の視点も必要。商店からは、集客に波がある滝道で安定的に経営するには、夜の時間帯の営業により集客・収益を確保する必要があるとの意見もある。滝道に魅力的なテナントを誘致してることが、最終的に滝道や箕面観光全体の活性化に繋がるため、滝道へ出店したいと考える方が今後とも繋がっていくように、夜の時間帯の観光活性化の検討も視野にいれたい。
- 夜の観光は非常に大事である。しかし、営業時間が長いから成功するわけではないため、色々なデータを収集し検討する事が必要である。
- WEB アンケートにおいて情報に関する設問がない。現地でのサインの充実などは限界がある。一方で、来る前のネット検索による情報収集時に適切な情報が届くよう、ウェブでの情報発信内容の整備を充実させる事が重要。
また、情報プラットフォームを立ち上げた後の費用やマンパワーなど継続的な運営が問題であり、広く意見を吸い上げて、プランニングを考えるべき。
- 情報はお金である。それらをどう活かしてゆくのが戦略であり、事業構築である。アクションすることで収益を得る方法はある、参考になる成功事例もある。情報プラットフォーム構築は難しいが、箕面の観光という視点の中で見たときに、一番足りないものだと思っているので、重点課題の一つとして取り組んでいく。
- テレビ番組にもなっているおてつたび(=来訪先でお手伝いしながらの旅)のように、体験型の滞在がこれから求められると思っている。WEB アンケートでも滞在中体験したいことがあるか聞いてほしい。
- 関係諸団体がこの会議で議論や情報交換をして、事業同士をコラボさせるなどの話が進むかもしれないが、この会議体はそこで終わらずに、もう一つ大きなステップの会議体になるべきだと思っている。観光を活性化させブランディングしてゆく際の現実的な問題は、この会議体では解決に向け話すことができない難しい問題もあるが、実現の有無にかかわらず、小さな意見が吸いあがって、検討されて、結果がでたという流れがわかる様な会議体にするべきである。
- 泉佐野市の様に、何かに取り組んでいる姿勢を感じれば、外部からはサポーターが集まり、実現に向かって動き出すことがある。
市域の4分の3が山である箕面市の中で、止々呂美エリアも含めた観光ツーリズム・アウトドアツーリズムの様なアイデアをかたちにすることができれば、外部よりそれ以降のアイデアが集まってくる。箕面市としてチャレンジできる事を行政と官民連携で推進したい。

- 回遊ルートの整備開発について、観光ブロックを繋ぐ新たなルート開発において、現状は箕面の観光地を繋ぐ二次交通がないために、お客様は車で来てそこだけ見て帰ってしまい、滞在時間も短く、お金が落ちないという課題がある。箕面ドライブウェイにおける渋滞は、そこにも原因がある。提案資料にある新たな回避ルートは、正直なところ難しいと考えている。一方、箕面市のアイデアとして、大型観光バスにより箕面駅でピックアップして、例えば、勝尾寺に行つて、そこからまたバスで大日駐車場に来てもらい、大日駐車場からは滝道をワンウェイで歩いて観光していただき、箕面駅から公共交通機関で帰っていただくことで、マイカーを抑制すると同時に、箕面の観光スポットを面で繋ぐバスルートの創出を考えている。
- 個々の個性を小さくすることによって、街の個性を大きくして、その街のトータルブランドを作るということが最初に取り組むべきところである。看板が読みにくいという問題も同様で、トータルブランドの中の景観の一つに入り込むべきである。
- 西国街道は行政の持ち物ではないため難しいが、例えば車両通行止めにして、一定区間「商業の街」として駐車場を整備していくなど、個々の店舗ではなく、その街道全てをブランディングすることで、「一人一人がやらなくても全員でやる」この理解を得られるような形に出来るのではないだろうか。成功例が小野原の西エリアである。喫茶店が連なることで、町のブランディングに成功している。成功事例は箕面にあるので盛り込んで進めて欲しい。

(3) 柚木座長よりの周辺自治体住民 WEB アンケート調査 概要(案)(検討資料 5P) について調査内容に追加すべき項目がないか質問があった。

- Web アンケートの中に「箕面に行って滞在している間に何か体験したことありますか。」という項目を追加してはどうか。
- アンケート内容において、具体的に「どの辺りを巡ったか」とか「どのスポットとか」「どのお店とか」実際に書いていただくと、より鮮明にその人の動きがわかるのではないか。
- 多世代に対しての自由筆記で、「こうしてほしい」「ここが足りない」ものを項目追加してはどうか。
- 休日観光の行先について、どういうソースから情報を取得し、何が決め手になり、そこに行くのか、というポイントは戦略を立てる上では重要である。

(4) 事務局より策定部会 分科会について説明をおこなった。

第2回策定部会の開催までに検討が必要な内容については関係する委員を参集して、分科会を開催し内容の充実を図っていく。

●公民連携箕面観光戦略会議 第1回策定部会 出席者名簿

分野	団体・組織名	策定部会	備考
有識者	地域活性化伝道師(内閣府登録)	柚木健 様	座長
商業者 事業者	箕面商工会議所	水沼博 様	
	箕面物産商組合	奥野輝夫 様	
	みのお滝道本町会	久國香保里 様	
	阪急電鉄(株)	小紫美香 様	
	(株)阪急交通社	大下修平 様	
寺社関係者	勝尾寺	小嶋隆文 様	
	西江寺	小倉叡裕 様	
まちづくり団体 観光関係団体	箕面FMまちそだて(株)	八木万理子 様	
	箕面公園管理事務所	甲斐あゆみ 様	
	箕面青年会議所	高橋諭吉 様	
	箕面都市開発(株)	広瀬幸平 様	
	箕面観光ボランティアガイド	米田真理子 様	
	みのお山麓保全委員会	高島文明 様	
	箕面市観光協会旅館部会	田村若菜 様	
	箕面市音楽協会所属 アンサンブルアルモニ	吉岡邑玲 様	
	箕面の森アートウォーク実行委員会	中谷雅代 様	
行政関係者	池田土木事務所	服部博之 様	
	北部農と緑の総合事務所(みどり環境課)	穂積佳子 様	オンライン出席
	箕面市地域創造部	葦澤宣雄 様	
	箕面市教育委員会(文化国際室)	小林和幸 様	